

2021年01月05日（火）【外為Lab】松田哲

タイトル：【謹賀新年】

明けましておめでとうございます。

本年も、何卒よろしく願い申し上げます。

新しい年が明けました。

昨日（1月4日）から、マーケット（外国為替市場）も始まりました。

このところの（ここ数年の）年初のマーケット（外国為替市場）は、荒れる展開が、多々ありました。

それで、今年（2021年）の年初（昨日の1月4日）も、ある種の期待感をもって、スタンバイしていたのですが、残念ながら、比較的、穏やかな値動きであった、と言えます。

さて、今年（2021年）は、どんな年になるのでしょうか？

コロナウイルス問題は、未だに、終息の兆しは見えず、むしろ、その変異種が出現するなど、拡大の兆しが散見されています。

昨日（1月4日）、英国では、イングランド全土を全面的なロックダウン（都市封鎖）にする旨、発表されました。

イングランドのロックダウン（都市封鎖）施行は、明日（1月6日）から。

英国のスコットランドでは、イングランドに先行して、本日（1月5日）から、ロックダウン（都市封鎖）施行となる。

日本でも、年初早々に、首都圏の一都三県の知事から政府に、「緊急事態宣言」の要望が出て、話し合いが持たれた。

その結果、1月7日に、首都圏の一都三県に対しての「緊急事態宣言」を決める方針となった。

昨年末を見ても、日本での新型コロナウイルス感染者の拡大傾向が著しい。

今回の「緊急事態宣言」も、遅きに失した印象が強い。

このような状況で、本当に、東京オリンピックが開催できるのか、大いに疑問だ。

日本に限らず、世界をざっと見渡しても、コロナウイルス問題は、今年（2021 年）の重要なテーマ（相場の材料）となり続けるのだろう。

そして、米国の大統領がバイデン氏に代わることで、新たな政策が打ち出される。

トランプ現大統領が、居座っているが、1 月 20 日の新大統領就任式が終われば、バイデン新大統領に決着する、と考えます。

通常は、（トランプ現大統領が敗北を認めて政権の移譲が行われていれば、）もうすでに、新政権の政策が重要なテーマ（相場の材料）となっているのですが、今のところ、まだ、大きな話題にはなっていない印象。

バイデン新大統領が、1 月下旬以降に、どのような対応をするのか、極めて注意を払う必要があります。

この年末から年初の値動きから、推察すると、マーケット（外国為替市場）が、『バイデン新大統領の期間は、「ドル安」を想定しているのではないか?』といった印象があるのですが、今（2021 年年初）の時点で、断定するのは、時期尚早。

しかしながら、トランプ政権時代と比較するならば、相対的に、バイデン新政権が、「ドル安」を採択する可能性は十分にあり得る、と考えます。

ただし、何はともあれ、新しい年は、始まったばかり。

じっくりと構えて、マーケット（外国為替市場）に臨みたい、と思います。

+++++

（2021 年 01 月 05 日東京時間 14 : 30 記述）